

新学部長に聞く

任期満了に伴い3学部の学部長が改選され、法学部長に田邊宏康教授、商学部長に石原裕也教授、ネットワーク情報学部長に飯田周作教授がそれぞれ選出された。任期は本年9月1日から2023年8月末まで。3学部長に、学部の特色や抱負などを聞いた。

法学部長
たなべ ひろやす
田邊 宏康



法律学科では12の履修モデル、政治学科では三つのコース制を導入しており、それぞれ関心のある分野について専門的・体系的に学びます。公務員を目指すなら公共法務を修得するためのモデル、民間企業への就職を目指すなら幅広く経済社会と法を学ぶモデルなどを設定し、将来への指針を示しています。ただ、モデル通りに履修しなければいけないわけではありません。自分が興味を持ったものを積極的に学んでほしいし、途中で変更してもかまいません。社会に出てからも学びは続きます。そこで役立つように、大学では広い視野を身につけてほしいですね。

温かい心と冷静な思考で

【略歴】西南学院大学大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程中退。博士(法学)。2003年本学法学部助教授、04年同教授。城山三郎などの経済小説が愛読書。かつては映画観賞に没頭したり、麻雀やゴルフなどもたしなんだりしたが、コロナ禍の今は一人でテレビゲームなどを楽しんでいます。福岡県出身。61歳。

商学部長
いしはら ひろや
石原 裕也



商学部が神田キャンパスに移転して2年目を迎えました。コロナ禍の影響でまだ十分とは言えませんが、マーケティング学科では神田神保町という立地を生かしたフィールドワークが徐々に増えています。たとえば余剰野菜を使ったカレーの販売プロジェクトもその一つ。今後は会計学科の学生もこうしたプロジェクトに参加するなど、学科の垣根を超えた展開も期待されます。神田キャンパスならではの取り組みや、社会とマッチアップした学びの機会を、より充実させたいと考えています。会計学科には資格取得を目指す学生が多く、在学中に公認会計士試験に合格するなど着実に成果を上げています。専修大学の会計教育には長い伝統があります。授業やゼミはもちろん、会計士講座や計修会など、高い志を持った学生同士が切磋琢磨する風土が根付いている点は学科の強みと言えます。一方で卒業生の多くは一般企業に就職することから、過度に専門性に偏ることなく、「社会で使える会計」「人生に役立つ会計」という視点も重視しています。商学部の特長として「コース制」と「履修モデル」を導入しています。具体的には、マーケティング学科は「マーケティング」「ファイナンス」「グローバルビジネス」「マーケティング」の4コース制をと

社会とマッチした学びを

【略歴】早稲田大学法学部卒業後、金融機関などに勤務。一橋大学大学院商学研究科博士課程修了。博士(商学)。2014年本学商学部教授。専門は財務会計論。趣味・特技は漂流釣り、麻雀。愛読書は歴史小説で、宮城昌光光などの戦記物を好んで読む。香川県出身ゆえに「3食うどんでも平気です」。60歳。

ネットワーク情報学部長
いいだ しゅうさく
飯田 周作



現在われわれが直面しているコロナ禍で、ICT(情報通信技術)が重要な社会基盤であるということの認識が深まりました。そこで大切なのは、データを解析して行動を決める、素早く情報システムを構築して問題を解決するといった迅速性や柔軟性です。それらを実現するためには基礎的な力——理論や技術の理解、読解力、コミュニケーション能力——が不可欠です。基礎的な力とその有効性を実感するための実践教育がセットになってネットワーク情報学部の教育が機能し、変化に適応する力が養われます。さらに本学部では、キャリア教育、体験を重視した教育を推進しています。キャリア教育は大学全体で柱として捉えられていますが、本学部では卒業生をはじめ学外の多様な方々をお招きし、キャリアを構築するための多くのヒントを提供しています。こうした機会をさらに増やし、簡単には将来像が描けない現代にあっても、自らの働き方を見定めてほしい。そして卒業後も継続して学び続けることの意義を感じてほしいと思っています。

変化に適応する力を養う

【略歴】専修大学経営学部情報管理学科卒業。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士課程修了。博士(情報科学)。2001年本学ネットワーク情報学部講師、03年同助教授、09年同教授。専門はソフトウェア。学生時代は「大学にずっといる学生でした。1号館の端末室で夜中までプログラミングに没頭していました」。東京都出身。51歳。

さまざまな体験から得られる質の高い気づきを積み重ねることによって学びは深まっています。グループワークが多いことが特徴の一つ。一人で学ぶことはもちろん必要ですが、共に学ぶことよって互いが刺激され、大きな力を発揮します。3年次生の必修科目「プロジェクト」や応用演習、フィールド演習、卒業演習など、体験を重視した教育を続けています。活動をきっかけに、学修への姿勢や考え方が大きく変わり、成果を人に見てもらうことで質の高い気づきを得ることがあります。こうしたリッチな体験をいかに提供できるかが、今、大きく問われています。コロナ禍にあってもさまざまな工夫をして、体験できる場を広げていきたいと考えています。